



～地域がささえる板橋の教育～

板橋区の学校支援の取組について



1 板橋区教育委員会の学校支援施策の展開について

1 施策展開の経緯

板橋区では、平成20年7月に策定した「いたばしの教育ビジョン」で、家庭・学校・地域が一体となって地域ぐるみで子供を育てる体制を整えることを描いています。

これを受けて、「いたばし学び支援プラン」の中の重点事業として「学校支援地域本部の設置」があげられ、平成22年度までに2校でモデル実施を進めながら、事業の効果等を検証しています。

2 学校支援の体制整備

区教育委員会では、地域代表・社会教育関係者・学校長・コーディネーターなどが委員となる「学校支援地域本部連絡会」を開催し、「学校支援地域本部」事業の進捗状況の評価及び検証や区全体規模の今後の方向を議論してきました。



「学校支援地域本部シンポジウムの開催」

来年度以降の取組の充実を検討するため、今年度に入ってから、学校支援地域本部事業の目的やモデル校での実践を踏まえて、疑問点や運営上の課題等を議論する中で、地域関係者や社会教育関係者からも、高い評価と今後の事業協力の了解を得るとともに、事業の拡大について提言がありました。

これと並行し、校長会を通じて全学校長に事業内容を紹介し、事業の周知及び理解を図っています。

また、平成22年10月30日に、学校支援地域本部事業の啓発やモデル実施校での成果の発表をかねて「板橋区学校支援地域本部シンポジウム」を開催し、教育長の出席の下、基調講演やモデル実施校2校の活動発表、学校長、コーディネーター、町会関係者が登壇したパネルディスカッションが行われ、学校支援についての活発な意見交換が行われました。

3 板橋区の特徴を生かした子供の教育支援に向けて

国の考える学校支援地域本部事業は、「学校の求める教育活動に関する支援」という側面が打ち出されていますが、板橋区では、「いきいき寺子屋」での体験活動や板橋区版放課後対策事業「あいキッズ」など、地域において子供を育成する様々な活動を一体と捉えて推進し、今後、連携のための整理は必要ですが、これらの活動の中核を「学校支援地域本部」が担当していくことを想定しています。

また、教育委員会では、それぞれの学校の特長や地域の状況などにより、様々な形態があって当然であるという認識の下、一律的な導入を図ることを考えてはいません。

学校だけで、子供たちを取り巻く様々な課題を解決し、教育を行っていくことは難しくなっています。更に、学校現場の教員の多忙な状況に対して、地域による様々な支援を行ってもらい、応援してもらうことが大変効果的であると考えます。

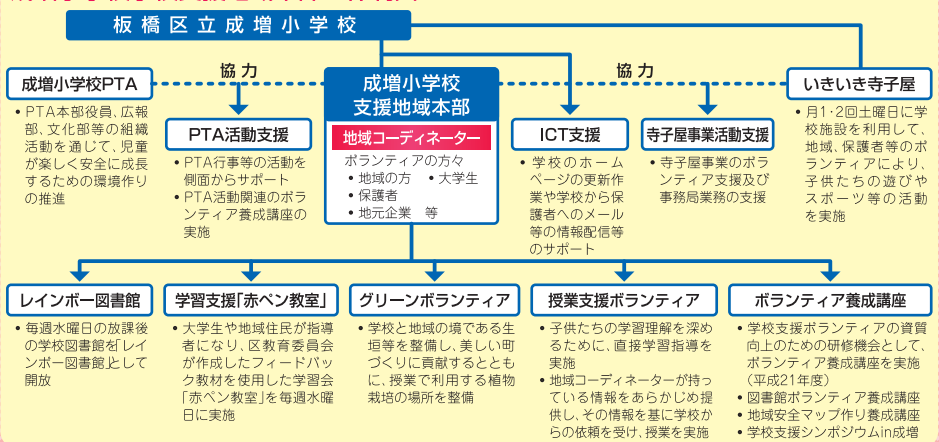
「学校が必要とする活動」に効果的に地域の方々が参加し、支援することにより、学校は子供と向きあう時間が確保され、教育力の向上も達成されます。また、この活動を通して、地域の教育力も向上することが期待されます。

2 板橋区のモデル校における学校支援の取組について

1 板橋区立成増小学校の学校支援の取組について

成増小学校(清水哲也校長)は、最寄の駅から5分程度と商業地域の近くにありますが、静かで自然の多い学校です。支援地域本部は平成20年10月に立ち上げ、現在は学校や地域が連携を図って様々な教育支援活動を行っています。

成増小学校学校支援地域本部の体制図



(1) コーディネーターは、学校の教育方針をよく理解して活動

学校支援の活動を円滑に進めるためには、学校と地域をつなぐ地域コーディネーターの役割が重要ですが、成増小学校では、学校と連携しながら、校内ニーズの把握、教育課題との照会、活動時間の調整など多岐にわたり活動しています。具体的には、地域コーディネーターは週に一度、校内に設置した支援地域本部室で、①学校と地域・保護者の連携の促進、②地域の活動や行事での子供たちの企画と運営の指導、③体験学習や学校行事等へ地域の方が参加できるように協力と支援、④放課後子供教室の運営支援、⑤学校内外の環境整備のボランティア募集などへの協力と支援等を行っています。

学校支援の活動を円滑に行うために、地域コーディネーターは学校の経営方針をよく理解しながら「赤ベン教室」

